

くすのき



岡本小学校 学校だより

No. 9

令和3年9月6日

『生き生き学校』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

オンライン朝の会

休校により、実質子どもたちの夏休みが一週間伸びたことになりましたが、その間、保護者の皆様には大変ご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

先日、たまたまお会いしたある保護者の方から、こんなお話を頂きました。

「岡小の先生方が、子どもたちのためにオンライン学習の準備に頑張っている姿を見て、保護者としても嬉しく感じています。私たち母親も分からないながら、互いに写メを送り合ったり、相談したりしながら、接続の仕方や操作の仕方を学んでいます。」

教職員にとって大変励みになるお話でしたので、早速共有させていただきました。私たちにとっても、保護者にとっても、子どもたちにとっても、まさに今は教育の転換期です。

9月2日・3日は、岡小にとって記念すべき「初オンライン朝の会」でした。

誰もが初めてのことで、初日は、接続がなかなかうまくいかなかったり、入室の仕方がわからなかったり、音声が聞こえなかったり…様々なトラブルがあり、ご迷惑をおかけしてしまいましたが、2日目にはほぼ全員が参加することができました。

あるクラスでは…

「これから探し物クイズをします。例えば先生が『家にある赤いもの』などのようにお題を出します。20秒以内に見つけてください。それではいくよ！」20秒後、画面は赤いものでいっぱいになりました。

あるクラスでは…

先生「会社活動(係)から何か連絡ある人いますか？」
子「今日は〇〇ちゃんの誕生日なので、みんなでハッピーバースデーを歌いたいです」
みんなで誕生日の歌を歌ってお祝いしたのは言うまでもありません。
心温まる光景でした。

あるクラスでは…

「YouTubeを流すので、それに合わせて歌ってください。家だから、大きな声を出していいよ！」

教室では、先生も大きな声で歌をリードしていました。みんなのすてきな歌声が聞こえてきました。



あるクラスでは…

「これで、朝の会を終わりにします。いつものように、先生とじゃんけんをして、勝った人から退出してください」

子どもたちと先生との楽しいジャンケン合戦が始まりました。みんなが笑顔になった瞬間です。

小学生にとっては、「朝の会」も、先生と子ども、子どもと子どもをつなぐ大切な学びです。それぞれの担任の先生たちのちょっとした工夫や声かけて、気持ちの良い1日のスタートがくれたのではないかと想像しています。

端末の持ち帰りやオンライン配信では、ご家庭でのご協力をいただき、ありがとうございました。持ち帰り期間は9月5日で終了しましたが、今後も文部科学省のガイドラインに基づき、学級閉鎖等を実施する可能性もあることから、引き続き必要に応じて端末を持ち帰ることができるようになります。

再度、端末を持ち帰ることが生じた場合、次の点にご留意ください。

○今回の端末の持ち帰りに当たり、申請書を提出された場合は、再度、申請書を記入していただく必要はありません。(新規に持ち帰る場合は、申請書が必要です。)

○再度、端末を持ち帰る場合も、申請書の提出時に確認された別紙の内容に同意した上で、お持ち帰りください。紛失・破損のないようご注意ください。

○登校に不安を感じる方で欠席を希望される方は、小学校にご連絡ください(74-2412)。

9月2日の「朝の会」に、「校長の話」も飛び入り参加させていただきました。以下、要約です。

日本人代表としてオリンピックに出場したこの選手は、小学生の頃、陸上や野球が得意でスポーツ万能な少年でした。しかし、子どもの頃「見た目がみんなと違うから」という理由で、友達から悪口を言われたり、仲間外れにされたりしました。バスケットボールを始めたことがきっかけとなり、「全国制覇したい」という夢を持つようになりました。バスケのコーチは、何度も少年に伝え続けます。

「他人にどう思われようがかまうな。バスケで見返してやれ！そして、将来はNBAをめざせ！」

少年は、コーチの言葉どおり、本当にアメリカのNBAチームに入るとい夢を実現し、今では多くの得点をいられる選手に成長しました。この少年の名は、「八村 塁」選手です。

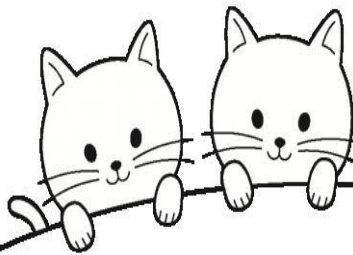
オリンピックに出場した選手たちにも夢や目標があったように、岡本小学校にも「学校教育目標」があります。それは、「夢に向かって未来を拓くおかもとの子」です。

「夢」を見つけるため、そして「夢」を実現するために、

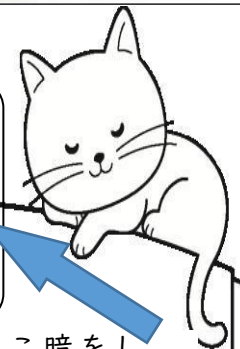
「いろいろなことに挑戦する」「好きなことを見つける」

「いろんな人と話をする」「失敗をたくさんする」

「夢に向かって未来を拓くおかもとの子」をめざして、この4つのことをぜひ続けてみてください。



わたしのひとりごと



これは、ある漢字の古代文字です。縦向きに置いた寝台の隣に、目ばかりを強調した人の姿を描いた形を表しています。答えは、「夢」です。現在は、下に「タ(夜を表す)」が付け加えられています。つまり、元来、「夢」とは、「ベッドに横たわる暗い夜の間にしか見ることができないはかないもの」という意味だったそうです。こう考えると、「夢」が消えないように留めておくこと(夢の中にいるということ)「夢の姿」は、相当のエネルギーが沸いている状態ということになります。

「次々にまた違う難問にぶち当たりますが、実はクラゲに夢中になって以降、努力を苦だと思ったことがないのです。楽しいから、面白いから、難しくてもやりたい。そして、もう一つ、当時の館長も、スタツフも、私の夢中を、一緒に面白がってくれた。これが本当の力になったと思います。」

世界一のクラゲ展示で廃館の危機を救った、山形の加茂水族館の館長さんの言葉です。この方は、子どもの頃、とにかく釣りが好きで、明けても暮れても釣り三昧の日々を送っていたそうです。このときに夢中になった経験が、今に生かされているということでした。

「うちの子が今夢中になっているものは、オンラインゲーム。それを何時間も続けられたら困っちゃうよ！」

世の中の母親たちの嘆きが聞こえてきそうです。ゲームに夢中になることは悪いことではありませんが、それ以外のものに興味がなくなってしまうたり、約束が守れなかったり、友達とトラブルばかり…という現象が起きることが問題ですね。ゲーム以外のものにも興味をもてるようにするために、どうすればいいのでしょうか？

「現代の子どもたちにはサンマがない」とよく言われます。「3つの間」とは、「時間」「空間」「仲間」のことです。子どもは、遊ぶ時間、遊ぶ空間(環境や場)、一緒に遊ぶ仲間がいることで、体を使いたいいろいろな遊びに興じることができそうです。ゲームの世界からなかなか抜け出すことのできない子どもには、一番身近な大人が、共に遊ぶ「仲間」となって、ゲーム以外に夢中になれる「空間」や「時間」を示してやる必要があります。これからの情報化社会の子育てには、「サンマ」が必要になってきそうです。

加茂水族館の館長さんは、こうも言っています。

「子どもが何かに夢中になっていたら、大人から見たら意味のないように見えても、まずは、見守ってあげてほしい」と。

「夢」の持てる子どもになるためには、身近な大人たちが子どもたちの「夢中」を育てる必要があるのだと思います。「夢」はいくつになっても持ち続けたいものです。